

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2014 年度（後期） 指定公募③

「在宅医療推進のための学会等への共催」

日本地域看護学会第 18 回学術集会プログラム

- 1.指定集会 1「地域包括ケアシステムにおいて保健師が果たす役割を考える集会」
- 2.指定集会 2「孤独死ではない在宅ひとり死を考える集会」
- 3.市民公開講座「遺品整理の最前線 ～命綱としての地域コミュニティ～」

報告書

提出年月日 2015 年 9 月 28 日

一般社団法人日本地域看護学会

第 18 回学術集会長 田高 悦子

(横浜市立大学大学院医学研究科教授)

申請者等は、一般社団法人日本地域看護学会第18回学術集会において、貴財団からの助成を受けて、下記のとおり、指定集会1・2および市民公開講座を実施した。

1. 日本地域看護学会第18回学術集会の概要

- 1) メインテーマ
：健康長寿社会に向けた地域看護学のグランドチャレンジ
- 2) 会期
：2015年7月31日（金）～8月2日（日）
- 3) 会場
：パシフィコ横浜会議センター（〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1）
横浜市開港記念会館（〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町1-6）
- 3) 学術集会長
：田高 悦子（横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野 教授）
- 4) 参加人数
：1,200名（うち、市民公開講座参加者数：237名）
- 5) 開催内容
：学術集会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、セミナー、市民公開講座、指定集会、自由集会、一般演題、スチューデントカフェ、企業展示等

2. 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成によるプログラム

- 1) 指定集会1
「地域包括ケアシステムにおいて保健師が果たす役割を考える集会」
- 2) 指定集会2
「孤独死ではない在宅ひとり死を考える集会」
- 3) 市民公開講座
「遺品整理の最前線 ～命綱としての地域コミュニティ～」

3. 開催報告及び感想

本学術集会メインテーマの「健康長寿社会」とは、一人ひとりの地域住民が生涯にわたって健やかで心豊かに生活し、老いることの出来る地域社会である。また「グランドチャレンジ」とは、取り組むべき「挑戦課題」の意である。すなわち本学術集会は、健康長寿社会の実現にむけた意義ある挑戦課題とその展望を見出すことを企画の意図としたものである。本学術集会プログラムのうち、貴財団の助成を受けた指定集会および市民公開講座については、「地域包括ケアシステム」「独居高齢者等の在宅での看取り」ならびに「地域コミュニティ」をキーワードに各々特色をもって当初計画に沿って展開された。その結果、指定集会1・2については各会場とも定員（70名）を超える多数の立席者が参加し、今後の在宅医療推進におけるさまざまな挑戦課題と課題解決のための多くの学術的、施策的示唆が得られた。また市民公開講座については237名が参加し、在宅医療推進に向けた市民啓発の機会ともなる、盛会と呼ぶにふさわしいものとなった。すなわち在宅医療推進のための貴助成の趣旨ならびに本学術集会の開催趣旨に照らして十分な効果が得られるものとなった。

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の本学術集会への助成に厚く御礼申し上げます。

4. 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成によるプログラムの概要

(日本地域看護学会第18回学術集会プログラム集より抜粋)

1) 指定集会1 2015年8月1日(土) 14:00~15:20 パシフィコ会議センター318

テーマ

: 地域包括ケアシステムにおいて保健師が果たす役割を考える集会
～保健師がみる・つなぐ・動かす地域包括ケアシステムとは～

ファシリテーター

: 工藤 禎子 北海道医療大学看護福祉学部地域保健看護学講座准教授

コファシリテーター

: 小林 裕美 日本赤十字九州国際看護大学在宅看護学領域教授

趣旨

: 医療介護総合確保推進法, 平成25年保健師活動指針による, 地域包括ケアシステムの推進に向けて, 保健師全体に共通する役割と様々な場の特性に応じた役割をともに考える.

2) 指定集会2 2015年8月1日(土) 15:30~16:50 パシフィコ会議センター318

テーマ

: 孤独死ではない在宅ひとり死を考える集会
～どのような体制や仕組みがあれば在宅ひとり死は可能になるのか～

ファシリテーター

: 柄澤 邦江 長野県看護大学看護学部広域看護学講座講師

コファシリテーター

: 伊藤 みほ子 下伊那赤十字病院看護部長 訪問看護認定看護師

趣旨

: 在宅ひとり死の現状や長野県南信地区の事例紹介を通して, 地域における看護職の役割や支援について言語化し, 地域に密着した保健・医療・介護・福祉のあり方について討議する.

3) 市民公開講座 2015年8月2日(日) 15:00~16:00 パシフィコ会議センター301

テーマ

: 遺品整理の最前線 ～命綱としての地域コミュニティ～

講師

: 小根 英人 一般社団法人遺品整理士認定協会副理事長

座長

: 有本 梓 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野准教授

趣旨

: 高齢化の急速な進展と核家族化に伴い, 需要の高まる「遺品整理」の最前線を紹介し, 孤立死問題の命綱としての地域コミュニティについて市民とともに考える.

5. 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成によるプログラムの詳細

(日本地域看護学会第18回学術集会講演集より抜粋)

1) 指定集会 1 2015年8月1日(土) 14:00~15:20

地域包括ケアシステムにおいて保健師が果たす役割を考える集会

～保健師がみる・つなぐ・動かす地域包括ケアシステムとは～

ファシリテーター

工藤 禎子 (北海道医療大学看護福祉学部地域保健看護学講座准教授)

コファシリテーター

小林 裕美 (日本赤十字九州国際看護大学在宅看護学領域教授)

【趣旨】

少子高齢化が進行し続けるわが国において、社会保障制度の持続のために、地域包括ケアシステムの推進が強調されるようになりました。

地域での住民や様々な機関とともに、包括的な保健、医療、福祉、介護、住居などのシステムを構築することが求められており、社会保障制度改革および「医療介護総合確保推進法」の後押しにより、現在は、地域包括ケアシステムを具体的に機能させる段階といえます。

保健師は従来から、地域の住民個人と地域全体のニーズを総合的にとらえ、地域にある様々なサービスシステムを包括的に整備することを業としてきた専門職です。平成25年の保健師活動指針においては、地域診断に基づくPDCAサイクルの実施、および地区担当制の推進、部署横断的な保健活動の連携及び協働などが提示されました。保健師はまさにこれまでの活動を活かしながら、地域での人々の望む暮らしを支える専門職であり、包括的なケアシステムをつくり動かす役割が期待されています。

「地域包括ケアシステム」において保健師が果たす役割は、実際には、保健師の所属機関によって異なっています。地域包括ケアシステムの推進のためには、保健師として共通して目指すべきことと、保健所、市町村、地域包括支援センター、及び医療機関など様々な場の特性を生かして強化していくべきことの両方を明らかにしていくことが重要と考えます。

様々な場で活躍する保健師の活動をもとに、一次予防から三次予防までをつなげる地域包括ケアシステムにおける保健師の役割について、ご興味をお持ちの皆さんと考える機会にしたいと考えます。

【予定】

- 1) 基調スピーチ (ファシリテーター)
- 2) 話題提供 (ファシリテーター・コファシリテーター)
- 3) フロアを含めたディスカッション
- 4) まとめ

2)指定集会 2 8月1日(土) 15:30~16:50

孤独死ではない在宅ひとり死を考える集会

～どのような体制や仕組みがあれば在宅ひとり死は可能になるのか～

ファシリテーター

柄澤 邦江 (長野県看護大学看護学部広域看護学講座講師)

コファシリテーター

伊藤 みほ子 (下伊那赤十字病院 看護部長 訪問看護認定看護師)

【趣旨】

ひとり暮らしをしていても要介護状態になったら自宅で介護を受け、孤独死ではないひとり死をしたいという願いは大きな共感を呼んでいる。しかし地域における看護職にとっても在宅ひとり死の支援は手探りの状態である。本集会では在宅ひとり死の現状や、長野県南信地区の在宅ひとり死を可能にした支援体制の紹介を糸口として地域における看護職の果たすべき役割や行える支援内容について言語化していきたいと考える。それにより地域に密着した保健・医療・介護・福祉のあり方や、地域における看護職としての具体的な活動についての意見を共有し、明日からの実践活動に繋がればと考える。

参加者の皆さまと「在宅ひとり死」を可能とする支援体制や看護職の役割について意見交換をしたいと思えます。多くの方のご参加をお願いします。

【予定】

1) 基調スピーチ

集会の主旨および「在宅ひとり死」の仮の定義についての説明

2) 話題提供

「在宅ひとり死」で看取った事例の支援体制について

3) 参加者とのディスカッション (グループ)

在宅ひとり死を可能する支援の体制やしぐみ

地域における看護職の果たすべき役割や行える支援内容

4) グループ発表

5) まとめ

3) 市民公開講座 8月2日(日) 15:00~16:00

遺品整理の最前線 ～命綱としての地域コミュニティ～

講師

小根 英人 (一般社団法人遺品整理士認定協会副理事長)

座長

有本 梓 (横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野准教授)

【趣旨】

健康長寿社会の実現にむけての最も重大な課題の一つは社会的孤立である。社会的孤立は少子高齢化の進展や人口減少、核家族化、単独世帯の増加、非婚や離婚の増加、家族や地域社会における関係性の希薄化、価値観の多様化等を背景に、高齢者や障がい者のみならず、地域社会のあらゆる世代の人々に関連している。

このような中で本講座では、一般社団法人遺品整理士認定協会の講演により、「遺品整理」の最前線を理解するとともに、誰もがごく普通に望む幸せで平和な最期と遺品整理のあり方、ならびに今後の地域コミュニティのありようについても、一般市民はもとより、全国の大学等研究者や保健医療福祉従事者等が一同に考える機会とすることを目的とする。

【抄録】

故人の部屋の片づけ、清掃、不要品の処分などの遺品整理は、これまで遺族の手で行われることが一般的だった。しかし、少子高齢化の急速な進展と、核家族化などに伴い、時間的にも人手の面でも、遺族の力だけでは支えきれない現状があり、遺品整理の需要が高まっている。また、孤立死も社会問題となる中では、地域での人付き合いが命綱となる。遺品整理の最前線を紹介し、命綱としての地域コミュニティについて考える。